

1人1日レモン1個分の減量を



事業所・市民による「ごみの分別と減量」を!



分別の不徹底が目立つ事業系ごみ。

事業系のごみ搬入量は全体の約35%で、分別されないごみが多く見られます。特にこの事業系ごみのなかでは紙類が32%を占めています。紙類が事業所内での再利用や資源としてリサイクルされると、ごみ減量は一気に進むことになります。

事業所のみなさんの分別・資源化への強力な取り組みが求められています。

◀ 環境センターでは、市長と職員によるごみの細かなチェックにより、事業所への指導が開始されています

心ない、ステーションへの混合ごみ。

残飯などが入った混合ごみが最終処分場に持ち込まれると悪臭やハエ、害虫などの大量発生によって、地域へ多大な迷惑をかけることになります。

混合ごみは、ごみ処理の混乱の元凶であるばかりでなく、まちの美観や住環境を著しくそこねます。ごみの分別は市民一人ひとりの自覚なくしてはできません。分別の強化が強く求められています。



△ 未分別で投棄された牧志地域のごみステーションの実態



地域住民から市と市民へ、きびしい注文相次ぐ。

市の分別の取り組みにもかかわらず分別がしっかり実行されていないため、地域住民に迷惑をかけています。

最終処分場周辺の地域住民が、4月からごみの分別チェックを強化するなかで、医療系産業廃棄物の持ち込みも確認されるなど、あらためて分別の不徹底さが指摘されています。ごみは、きちんと5種類に分別して出しましょう。

◀ 最終処分場でごみの分別をチェックする地域住民

毎日、約25トンを超えて新たに市外の業者へ委託 1日約50万円、年間で約2億円を処分委託料として予算計上。

お問い合わせ：環境業務課
888-0939 FAX 888-1274

ゼロエミッションからごみ問題を考えるとき、大切なキーワードとなるのが「ひとつの材料を無駄なく使えること」です。

私たちは、こうした発想から

① 県内産の原材料を無駄なく使(ゼロエミッションの推進)

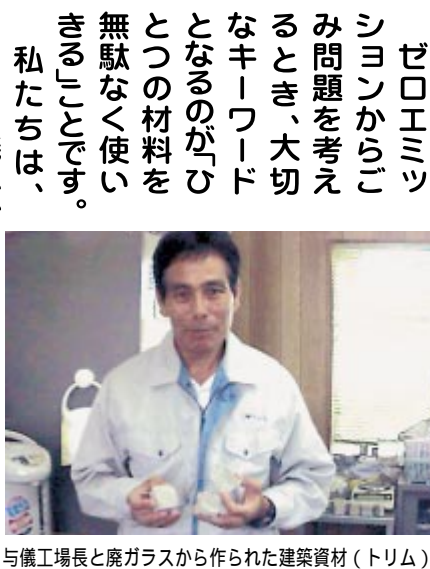
② いろいろな種類の仕事が生まれる(産業創出)

③ 働く人がたくさん必要になる(雇用創出)

④ 環境にもやさしく儲かる仕事で沖縄が元気に(地域振興)という社会を目標にしています。

また、すでに環境ビジネスに取り組んでいる県内企業とつながること

も私たちの仕事です。



与儀工場長と廃ガラスから作られた建築資材(トリム)

那覇市ゼロエミッション推進室では、衣・食・住・学・遊、生活に関わるすべてが、もつと豊かにもつと快適になるよう目指しながら、那覇市のごみ問題を考えたいきます。(ゼロエミッション推進室 941-2635)

なほ・ゼロエミッションのまちづくり



上間常務と紙ひも(ふじ産業)

② あきびんは蓋を取り、軽く洗ってくださいという2点があげられました。

各家庭でのひとつひとつの手間が、企業の大きな手間を減らし、環境にやさしいリサイクル商品が安い値段で店頭並びます。

循環型社会を創っていくには、那覇で生まれた方、育った方、そしていま生活している方、みなさまのお知恵とお力が必要です。

那覇市の理想像や循環型社会へ向けてのアイデアなど、ご意見ご感想をこちらよりお待ちしております。